

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成20年4月10日(2008.4.10)

【公開番号】特開2006-278886(P2006-278886A)

【公開日】平成18年10月12日(2006.10.12)

【年通号数】公開・登録公報2006-040

【出願番号】特願2005-98277(P2005-98277)

【国際特許分類】

H 0 1 L 21/82 (2006.01)

G 0 6 F 17/50 (2006.01)

H 0 1 L 21/822 (2006.01)

H 0 1 L 27/04 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 21/82 W

G 0 6 F 17/50 6 5 8 K

G 0 6 F 17/50 6 5 8 V

H 0 1 L 21/82 C

H 0 1 L 27/04 D

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月22日(2008.2.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

半導体集積回路のクロックネットと非クロックネットとの双方を配線する配線方法において、

配線どうしの間のスペーシングを規定する条件を、配線どうしの間に他の配線が可能なスペースを空けるという第 1 の条件の下でクロックネットを配線し、

次に、前記第 1 の条件よりも、配線どうしの間のスペーシングを狭めて前記第 1 の条件の下で配線した配線どうしの間を配線領域として開放した第 2 の条件の下で非クロックネットを配線することを特徴とする配線方法。

【請求項 2】

前記非クロックネットが信号を伝送するための配線構造であることを特徴とする請求項 1 記載の配線方法。

【請求項 3】

前記第 1 の条件として、配線どうしの間に複数本の配線が可能なスペースを空けるという条件を採用してクロックネットを配線することを特徴とする請求項 1 または 2 記載の配線方法。

【請求項 4】

前記第 1 の条件として、配線どうしの間に一本の配線が可能なスペースを空けるという条件を採用してクロックネットを配線することを特徴とする請求項 1 または 2 記載の配線方法。

【請求項 5】

クロックネットと非クロックネットとの双方が配線された半導体集積回路において、前記クロックネットが、配線どうしの間に他の配線が可能なスペースを空けるという第

1 の条件の下で配線され、

前記非クロックネットが、前記クロックネットの配線どうしの間に配線されていることを特徴とする半導体集積回路。

【請求項 6】

前記非クロックネットが信号を伝送するための配線構造であることを特徴とする請求項

5 記載の半導体集積回路。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】半導体集積回路の配線方法および半導体集積回路